

支えられて歩んだ道のり

ば3年半が経ち、看護学実習もいよいよ後半に入りました。実習では患者さんやご家族と関わる中で、看護師としての責任ややりがいを感じています。

先生や仲間と支え合いながら取り組む時間は、自分にとってかけがえのないものです。ここまで数多くの試験や実習を乗り越えてこられたのも、支えてくれる仲間や先生方、家族の存在があったからこそです。

現在、実習をしながら卒業論文、就職活動、そして国家試験勉強と、慌ただしくも充実した毎日を送っています。大変なことも多いですが、その中で得られる学びや成長を大切にしながら、一歩ずつ前に進んでいます。

先生や仲間と支え合いながら取り組む時間は、自分にとってかけがえのないものです。ここまで数多くの試験や実習を乗り越えてこられたのも、支えてくれる仲間や先生方、家族の存在があったからこそです。

1年生の冬、名寄に雪が降った日、私は大切なスマートフォンを落としてしまいました。テストが近づく中で焦りや不安に押しつぶされそうでしたが、友人たちが警察に連絡してくれたら、テスト範囲を教えてくれたりと、多くの人に助けられました。

3年生になった入学式の日、同じ学科の学生が「これ、もしかして」と手渡してくれました。雪解けとともに、姿を現したスマホと、それを届けてくれた優しさに胸が熱くなりしました。名寄の学生のあたたかさ、つながりの中で過ごしてきたことを実感した瞬間でした。

卒業後は、名寄に残る人、札幌や道外へ進む人など、進路はさまざまです。私もその一人として、これまで得た学びや出会いを大切に、看護師として成長を続けていきたいと思っています。



看護学科4年

圓谷彩夏

名寄市立大学に入
学してから、気づけ